

熊本における日本語教育体制整備 に向けた取り組み

在住外国人散在地域における
大学・民間の連携・協働

平成22年度地域日本語教育コーディネーター研修終了
一般財団法人熊本市国際交流振興事業団 事務局長
八木 浩光

報告内容

- ✓ (1-1) 地域の状況
- ✓ (1-2) 活動団体の概要
- ✓ (1-3) 報告者の自己紹介
- ✓ (2) CDとしての事業への関わり方
- ✓ (3-1) 体制整備の課題
- ✓ (3-2) 今後に向けて

(1-1) 地域の状況



(1-1) 地域の状況(在住外国人)

国籍:

アジア 90%以上

(中国、フィリピン、韓国・朝鮮..)

在留資格:

永住者、技能実習、
日本人の配偶者...

(1-1) 地域の状況(課題)

- 在住外国人散在地域

自治体

→専門の職員が不在。

→多文化共生社会づくり施策への予算なし

- 日本語教育が必要な児童・生徒の編入を予想しての予算計上は困難
- 少数の外国人対象の日本語教室開設出来ない。

(1-1) 地域の状況(課題)

- 在住外国人散在地域

民間

→ボランティア活動のため不安定

→多文化共生社会という認識が少ない。

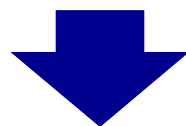
在住外国人

→重要な生活情報が伝わっていない。

→交流の機会が少ない。(民間も)

課題(まとめ) → 解決(理想)

- 市町村間の多文化共生社会度の格差
 - 日本語教室を開催している市町村 7/45
(民間を含む)
 - 義務教育課程での初期日本語指導を
実施している市町村 2/45



言語保障としての初級日本語学習機会の提供
＋(シームレスにつなぐ)
地域のボランティア日本語教室

(1-2) 活動団体の概要

- 一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

熊本市が設立した国際交流協会

Vision

「すべての人が安心して快適に
暮らせる開かれた社会の実現」



- 多文化共生・人づくり: 3名
- 国際化推進・会館管理・まちづくり: 5名 / 6名
- 財団管理(総務・経理): 1名 / 1名
- 全体(経営): 2名(事務局長/事務局次長)

(1-3) 報告者の自己紹介

多文化共生に割り当てられる人数:
事務局長1/3、次長1/3、主査1/2

担当 1 → 2名

スタッフ、ボランティア等の協働で



2012年度文化庁日本語教育大会

中国関係

- ・華友会、青春を語り共に歩む会
- ・熊本県中国残留孤児対策協議会
- ・熊本県日中友好協会
- ・熊本県日中協会
- ・九州中国帰国者支援交流センター
- * 重点地区: 城山、大江、東町、
武蔵が丘、菊陽

韓国・朝鮮関係

韓国民団

フィリピン関係

- ・コムスタカ
- ・外国人妻の会
- * 国際結婚者
含む

熊本県行政関係

- ・熊本県国際課
- ・市町村
- ・熊本県国際協会

職員 : 中国語、英語、フランス語

国際交流会館

熊本市行政関係

- ・国際室
- ・教育委員会
- ・保健福祉センター
等

留学生関係

- ・熊本大学
- ・学園大学
- ・県立大学
- ・崇城大学 他

技能実習関係

- ・インカ
- ・繊維協同組合

その他

- ・料理店
- ・英会話スクール
- ・会館利用者

くらしのにほんご



漢字教室



2012年度文化庁日本語教育大会

地域日本語教室



初級日本語集中講座



防災支援



2012年度文化庁日本語教育大会

教育サポート



2012年度文化庁日本語教育大会

多文化共生施策は広域で...

**熊本市内 –
熊本市からの指定管理事業として実施**

**熊本市外 –
自主事業として実施**

**2012年4月 一般財団法人への移行時、
定款で、活動地域を熊本県内としました。**

(2) CDとしての事業への関わり方

- 2002, 3年 日本語教室の行き詰まり...
(受講生減少、市予算削減)
日本語学校との違い - 生活者
生活者のニーズ - 日本語で出来る
高額(5000円/8回)な受講料は ×
毎週は出席出来ない...
- 2004年 日本語ボランティア活動
「くらしのにほんごくらぶ」開始

「くらしのにほんごくらぶ」

- 日本語の専門家からの批判
 - ボランティアでは教えられない。
交流、社会参画が目的
 - 行政の責任逃れ
でも、待ってられない
- 学習者が来ない(最初の3ヶ月～苦悩の時)
- ボランティアの悩み
 - 役に立っている？
お互い楽しい、研修会

生活日本語ボランティア研修会

- 2004年 スタート
 - 「くらしのにほんごくらぶ」活動
ボランティアの研修
 - 日本語支援ボランティアの増加
 - 日本語支援団体の連携

(3-1) 体制整備の課題

- 日本語支援ボランティア数： 熊本市は増加...
しかし、熊本市外は依然として少ない...

→ 2007年, 八代市、大津町で開催

- 熊本市国際交流会館まで来れない外国人
- 地域にボランティアが活動できる日本語教室がない...
- コーディネーターもない...

→ 2009年 文化庁委託事業で研修会開催

熊本県立大学との連携で 多文化共生社会づくりの推進

- 地域社会の現場・活動と教育の現場・研究の連携で、先を予想した取り組みを実現...
(大学の地域貢献事業、サービスラーニング)
- 人材の育成...
- 地域の行政への提言 — 現場の状況を学術的に検討・検証する。

取り組み例

- 月一回の学習会(多文化共生クラスター)
- アンケート調査
「熊本在住の外国人を取り巻く諸状況」
- 多文化共生シンポジウム

平成22年度地域日本語教育CD研修

- 受講動機

- 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案を学ぶ。

- 体制整備→国・都道府県・市町村の役割分担への関心

熊本県内の市町村の多文化共生社会度合いの
温度差是正につながる何かを得ることが出来る
のではないか！

熊本県内市町村における日本語教育 の実情調査

- 熊本市外に日本語支援の仕組みが少ない。
- 各市町村における正確な現状、そこでの日本語教室開設の必要性、可能性について調査
- 方式（メール、FAXでのアンケート）

+
A. 貴地域の基本情報
（最近のデータをお願いします。平成 22 年 月現在）

総人口	人	国籍別の多い上位 3 ヶ国の登録者数	
外国人登録者数	人	① ()	人
		② ()	人
		③ ()	人
		在留資格別の多い上位 3 在留資格の登録者数	
		① ()	人
		② ()	人
		③ ()	人
外国人住民の 在住の状況	1. いくつかの地区に集住されている。 （特に多く在住されている地区が分かればご記入下さい。） 2. 散在されている。		

以下の問いにご回答をお願いします。↵

B.貴地域に在住外国人を支援している民間組織はありますか？ ある ・ ない↵

C.貴地域内で日本語教室が開催されていますか？ はい ・ いいえ↵

↵

D.貴地域内で外国人が参加する交流イベントは開催されていますか？↵

はい ・ いいえ↵

E.貴地域内で、外国人が直面している問題がありますか？↵

↵

F.貴地域内で、外国人が日本人住民に対して、引き起こした問題がありますか？↵

↵

G.貴地域内で日本語教室を開設、増設する場合、課題となることはありますか？ ←

1.学習者がいない。 ←

2.学習者のニーズが分からない。(内容、時間帯など) ←

3.どんな教材を使用してよいか分からない。 ←

4.日本語を教える日本語教師、あるいはボランティアがいない。 ←

5.日本語教室を開設する場所がない。 ←

6.予算がない。 ←

7.どのようにしてよいかが分からない。 ←

8.その他 () ←

←

H. その他、外国人との多文化共生社会の構築に関して、貴地域内で気になる点がございましたら、ご自由にご記入下さい。 ←

←

アンケート結果 → 「動く」

- 「動く」:
 - ＞ アンケート結果を市町村へ送付
「知らせる」
 - ＞ フィリピン人コミュニティーへの日本語
学習ニーズ調査
 - ＞ 熊本県立大学と共同で、地域日本語
教育カリキュラム開発

市町村と外国人をつなげる。

学習者＋支援者＋場所＝地域日本語教室



2012年度文化庁日本語教育大会

場所 阿蘇青少年交流の家
支援者 阿蘇市教育委員会OB
学習者 阿蘇市のフィリピン人

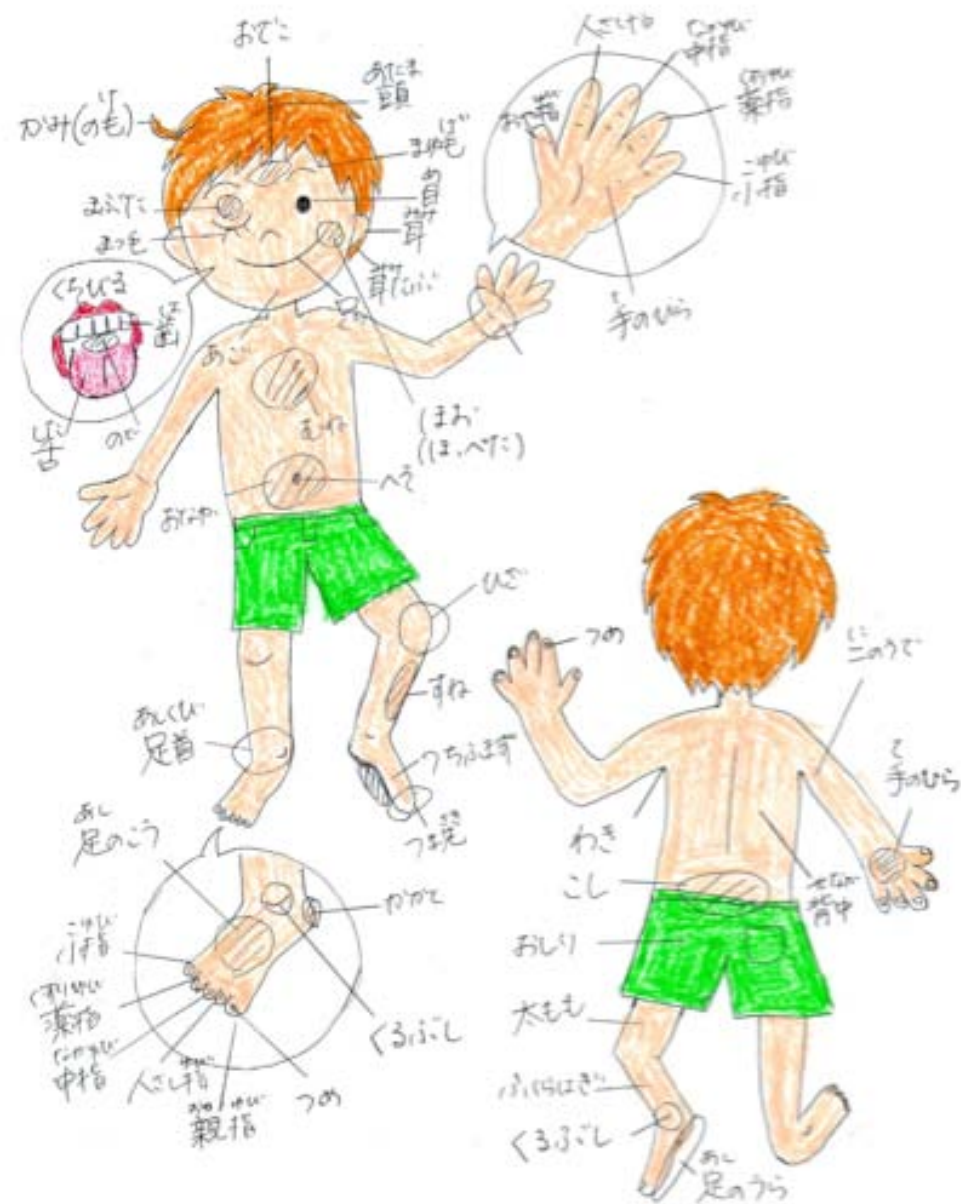


地域日本語教育カリキュラム開発

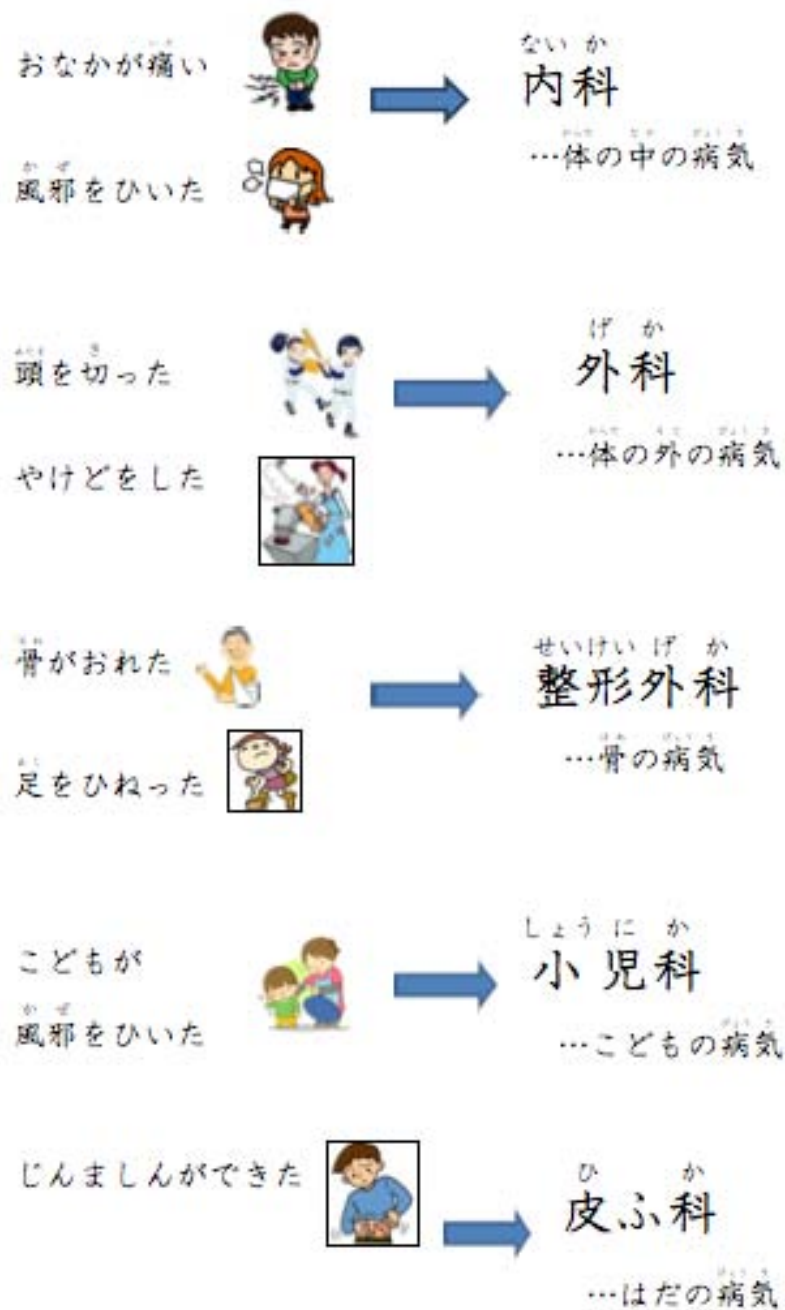
- 地域日本語教室で活用できる生活に密着したカリキュラムがあると良いのに...
 - ＞ボランティアの活動の不安へ対応
 - ＞学習者が自ら使用出来る。
- 熊本県立大学日本語・日本文学科の専門性を現場で地域貢献として活かす活動
- 文化庁「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブックを参考にして開発

- 緊急に備えよう
 - もしも病気になったら、けがをしたら
 - 仕事に就きたい人のための日本語テキスト
1. テキスト
 2. 漢字練習帳
 3. ボランティアの手引き

智 雲 文



こんなとき、どこに行く！？



しょうじょう つた
症 状 を 伝 える

Syoyjo o tsutaeru

なまえ を よばれたら、うけつけ の ひと の 指示 を 聞いて 診察室 に行きましょう。

Namae o yobaretara, uketuke no hito no shiji o kiite shinsatsushitu ni ikimasyo.

診察室 に入る 前に 熱 を はかる こと も あります。

Shinsatushitu ni hairu mae ni netu o haku koto mo arimasu.

診察室 に入ったら、医師 に 自分 の 症 状 を 伝え なければ なりません。

Shinsatushitu ni haittara, ishi ni jibun no syojyo o tutae nakereba narimasen.

い し
医師 : こんにちは。

Ishi Konnichiwa.

あなた : こんにちは。

Ishi Konnichiwa.

い し
医師 : 今日は どう しました か ?

Ishi Kyo wa doshimashitaka?

あなた : 頭 が 痛くて …。

Anata Atama ga itakute....

い し
医師 : いつから ですか ?

Ishi Itukara desuka?

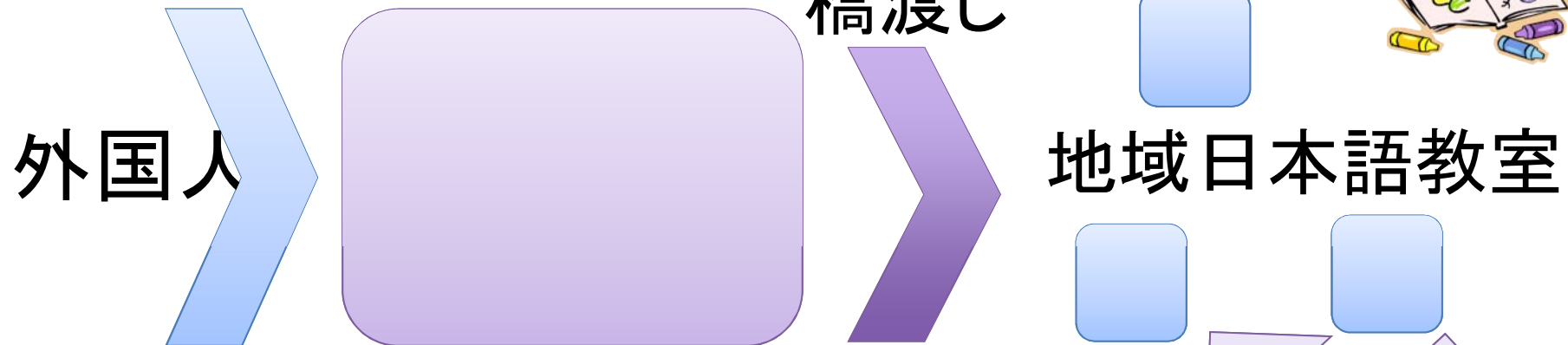


多文化共生社会づくり推進事業 運営委員会

- 地域日本語教育カリキュラム開発について、
日本語講師等専門家へ報告...
 - ＞ 最近、日本語能力ゼロの外国人が増加
 - ＞ ボランティアによる地域日本語教室では
対応できない。
 - ＞ 言語保障としての集中講座も必要...

市町村、
国際交流協会、
日本語教師

市町村、
民間団体、
ボランティア



地域日本語教育
カリキュラム開発

シームレスな日本語支援体制
オンデマンド形式の地域日本語教室



(3-2) 今後に向けて - つなげる

市町村

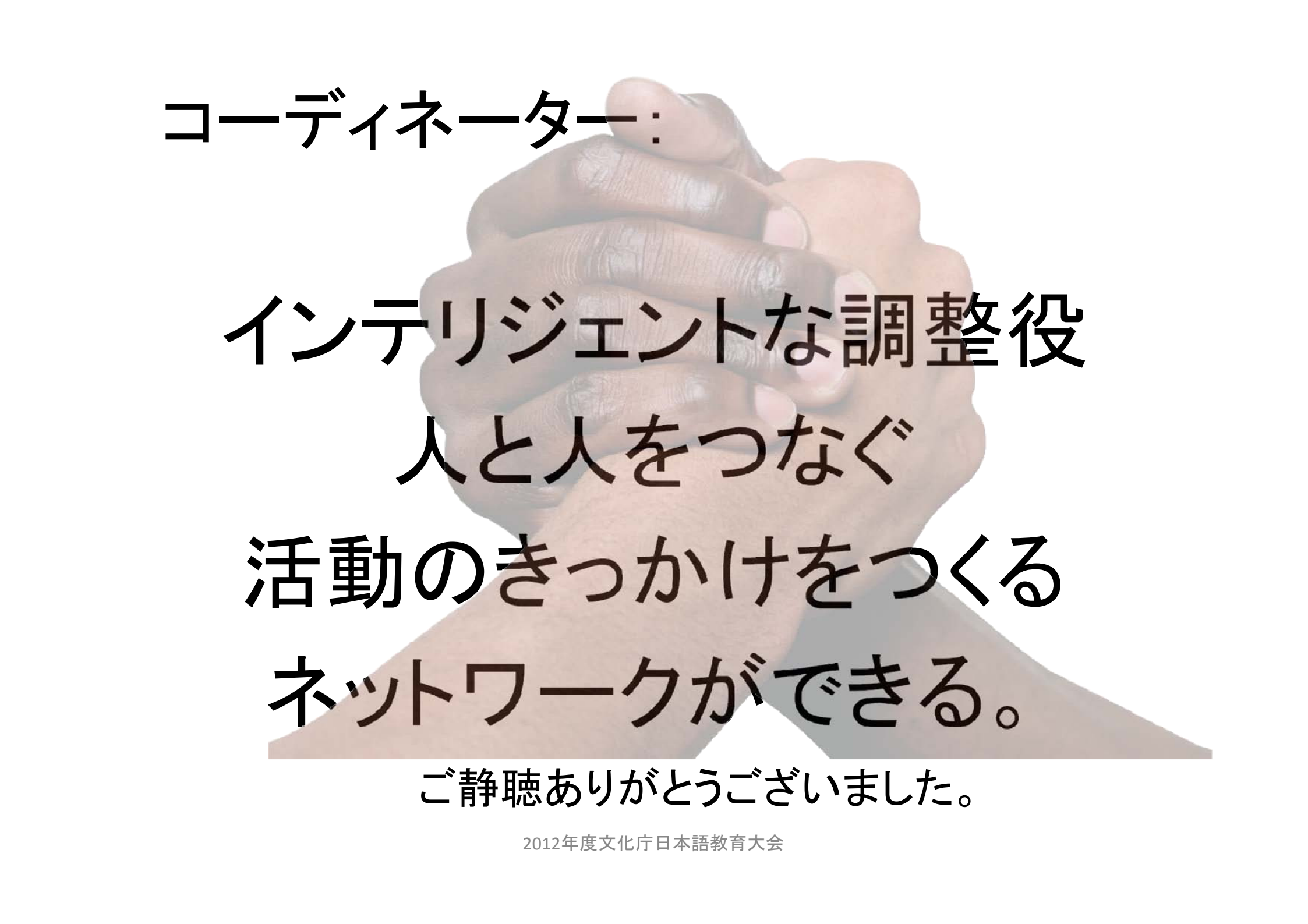
外国人を受け入れる自治体の責任として最低限の日本語基礎学習の機会を提供

ボランティア 学習者

決して教えるのではなく、一緒に学習するためのプログラムを開発

社会

日本語をテーマに外国人と日本人がパートナーとなる豊かな社会の構築



コーディネーター:

インテリジェントな調整役
人と人をつなぐ
活動のきっかけをつくる
ネットワークができる。

ご静聴ありがとうございました。